



荘原小だより

「努力する子ども」 「よく考える子ども」 「からだと心を鍛える子ども」 「やさしく仲よくする子ども」

伝統を守り、新しく創り出す

昨年度末から、今年度にかけて例年と違うことが多くありました。そんな中で荘原小学校の伝統を守ったもの、そして新たに作り出したものがあるように感じます。

伝統を守ったものの代表として「弥生の舞」と「6年生平和学習」について紹介します。

「弥生の舞」は、30年以上荘原小学校に引き継がれているものです。例年3回の発表の場（荒神谷公園・荘原夏祭り・荘原っ子フェスティバル）がありますが、今年度は中止となりました。このままでは継承に支障が出かねない、また、練習してきた子ども達の披露の場がないということで12月16日に校内発表会を開きました。密を避けるために2回に分けて発表しました。とても荘厳で、素晴らしい発表でした。5・6年生も発表する機会があつて、とても満足そうに見えました。

この発表を見た4・5年生が、来年度「弥生の舞」を舞いたいと50人も参加を希望してくれました。3月9日には、その4・5年生を集めて、位置決めなどを行いました。来年度もしっかりと伝統を受け継いでいってくれることでしょう。

「6年生の平和学習」に荘原小学校は熱心に取り組んできました。今年度は修学旅行で広島へ行けなかったため、原爆資料館の見学や語り部さんから直接お話を聞くことができませんでした。しかし、須田先生に地域に残る戦争遺跡のことやご自分のお父様の話を通して原爆の恐ろしさについても教えていただきました。また、被爆体験伝承者の方のお話もお聞きし、原爆の現実や平和の大切さについて学びました。



そして、学んだことのまとめとして学習公開日に劇として発表しました。一人一人の表現力も素晴らしかったですが、それぞれのセリフにこめられている「平和の尊さ」「命の大切さ」「戦争の悲惨さ」についてよく理解しながら発表していたところが素晴らしかったです。学習したことが確かな学びとなっていることが伝わってきました。これからもこの平和学習は形を変えることはあるにせよ、荘原小学校の良き伝統として続いていくことでしょう。

逆に、このコロナ禍だから生まれた新しい伝統もあります。その中で「ありがとうさようなら集会」を紹介します。

「ありがとうさようなら集会」も例年なら全校が一堂に会して行っていました。今年は、6年生と司会進行をする5年生だけが体育館にいて、そのほかの学年は、発表する時だけ体育館へ行く形をとりました。教室で体育館の発表が見られるようにタブレットや大型モニターを活用しました。中継の形をとることから、進行の5年生もテレビ中継風の演出を考えていました。様々な制限がある中で、できることを探し工夫して実施することで、今までにはないものが生まれました。しかし、形は違っても目的は同じで「6年生に感謝を伝える」ことは十分できました。

荘原小学校の伝統は守りながら、新しい時代にあった伝統を生み出した1年でした。今後も模索しながらの日々が続くと思われませんが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



最近の子ども達..

①なわとび

なわとび集会では中・高学年の子ども達が難しい技に挑戦していました。これも伝統を受け継ぐことになるのかわかりませんが、それを見た低学年の子ども達はその技に集会後挑戦しています。二重跳びができる子どもも増え、中には二重あや跳びができる子どももいます。憧れが伝統を作るのかもしれない。

②あいさつ

1月の学校だよりでお知らせした「あいさつ」ですが、どんどん素敵なあいさつができる子どもが増えてきています。地域の方からも、「大きな声であいさつしていて、とてもいいですよ。」とお褒めの言葉をいただきました。来年度もさらにあいさつが良くなるよう、学校全体で取り組みたいと思います。

